

探訪 新ライフスタイル

世界の主要48都市の「世界の総合都市力ランキング2019」(森記念財団都市戦略研究所)は、1位ロンドン、2位ニューヨーク、3位東京、4位パリ、5位シンガポールの結果だった。このベスト5の中の常連都市と比べ、東京には五感に訴えるセンシユアスな要素として重要なナイト

ライフスタイル

世界都市・東京に足りないもの



「Hisayaodoripark」は夜にこそ映える(名古屋市中区)

五感満たすナイトライフ必須

カルチャーが欠落している。昼間だけでなく夜間に文化映画やライブハウス、娯楽街を好み、美しい景観に誇り、栄地区全体のブランド価値を大きく高めたことは、東京が真のクリエイティブシティ(創造都市)になるには、都市文化の充実にもランドマーク性がある施設と周辺街区との融合に大きな可能性を感じる。1958年からシンボルとして愛され続ける「東京タワー」を筆頭に、1889年に開場した「歌舞伎座」も、ライトアップされた夜になるさらに美しいはず。たずまいが際立つ。

東京には歓楽街はあるが、家族やカップルが夕方から夜にかけて楽しむ視点が抜け落ちている。魅力的な都市には必ずセクシユアなカルチャーを大事にするから。東京以外の都市には、ミュージカル、オペラ、コンサート、夜間人口の方が多いパリでは、市民が夜に美しい街を好み、美しい景観に誇りを持つ。東京が真のクリエイティブシティ(創造都市)になるには、都市文化の充実にもランドマーク性がある施設と周辺街区との融合に大きな可能性を感じる。1958年からシンボルとして愛され続ける「東京タワー」を筆頭に、1889年に開場した「歌舞伎座」も、ライトアップされた夜になるさらに美しいはず。たずまいが際立つ。

の「久屋大通公園(Hisayaodoripark)だ。従前の公園は姉妹提携都市ロサンゼルスと南京をモチーフにし、そこに日本庭園を重ねた退屈な空間であり、ランドマークのテレビ塔との連動もなかった。それがセンシユアスな視点をちりばめた昼も夜も楽しめる場所になり、栄地区全体のブランド価値を大きく高めたことは、東京が真のクリエイティブシティ(創造都市)になるには、都市文化の充実にもランドマーク性がある施設と周辺街区との融合に大きな可能性を感じる。1958年からシンボルとして愛され続ける「東京タワー」を筆頭に、1889年に開場した「歌舞伎座」も、ライトアップされた夜になるさらに美しいはず。たずまいが際立つ。

歌舞伎座周辺には老舗の飲食店や、おしゃれなオーブンテラスのビストロやカフェが点在する。演劇・映画専門の松竹大谷図書館、歌舞伎役者に愛用される足袋の博物館を併設した大野屋総本店もあり、昼夜の街歩き型かいいの期待が持

大相撲の聖地「両国国技館」周辺には、ちゃんこ屋が連なる国技館通りや江戸東京博物館、隅田川にも近い。この立地特性を生かし、川沿いにセンシユアスなカフェが並ぶと、大きく生まれ変わるだろう。

日本人口の29%が集中する東京都圏にあって、東京中心部での夜間人口の著しい低さは課題だが、逆に伸び代もある。アフターコロナでは従来の歓楽街とは一線を画す、ロマンチックな魅惑の場づくりができれば、都市生活者が夜の時間を楽しめるセンシユアスな都市ライフスタイルが生まれるだろう。

(商い創造研究所代表 松本大地)